

令和4年度 事業報告

令和4年度において実施した本会の事業の概要は、次のとおりである。

1 広報事業

(1) 社会貢献広報事業

宝くじの社会貢献広報事業として、公益法人等が行う社会福祉、社会教育、青少年育成、安心安全、その他公益の増進等に寄与すると認められる事業に対し、のべ88団体に、総額2,607,615,058円(消費税込み)の助成を行った。

(2) 宝くじドリーム館の管理運営

宝くじが、地方公共団体の貴重な財源として全国の街づくりや住民生活の向上に果たしている役割が大きいことなどから、宝くじの公益性、役割等について積極的に広報活動を行うため、恒常的な普及宣伝、情報発信基地としての宝くじドリーム館2か所（①東京：中央区京橋、②大阪：大阪市浪速区湊町）の管理運営を行った。

① 常設展示

- ・日本の宝くじの歴史（江戸時代の「富くじ」、宝くじの歴史等の展示）
- ・収益金の使い道（宝くじの収益金が役立っていることを写真や映像で紹介）
- ・情報検索コーナー（宝くじの発売スケジュールや過去1年間の当せん番号など宝くじに関係することをパソコンで調べることができる）
- ・世界の富くじ（世界各国のさまざまな富くじの展示等） 等

② イベント等の開催

- ・昼休み時等にコンサート等を実施（全て無料。東京31回、大阪39回）し、親しみの持てる施設として入館者の増加に努めた。

なお、ドリーム館の入館者は、東京73,296人、大阪37,904人であった。

③ 宝くじ抽せん会場の提供

- ・ナンバーズ、ミニロト、ロト6、ロト7、ビンゴ5及び着せかえクーちゃん等の抽せんを、東京で759回、大阪で45回実施した。

(3) その他の事業

社会貢献広報事業の一環として、宝くじの役割、公益性等を周知するため、助成対象事業を紹介したカレンダーを30万部作成し、幅広く国民に配布した。

2 調査研究事業

発売団体等の企画運営等の参考に資するため、次の事業を実施し、関係機関等へ配布した。

(1) 宝くじに関する世論調査

「宝くじに関する世論調査」(3年ごとに実施する世論調査)

(2) 宝くじ統計調査

「宝くじ統計調査」(宝くじに関する消費者の意識、要望等を調査)

(3) 宝くじに関する調査

「主要国の富くじ要覧」(ヨーロッパ編)

(4) その他の事業

全国自治宝くじ事務協議会に令和3年10月に設置された「ポストコロナを見据えた令和時代の宝くじのあり方研究会」の事務局を令和4年6月まで務めるとともに、報告書を取りまとめた。

3 国際富くじ組織との連絡協調

発売団体の依頼に基づき正会員等となっている世界富くじ協会等の国際会議に、国際協調を図るために理事長が対応した。

(1) 世界富くじ協会 (WLA: World Lottery Association)

・日宝協: 正会員

・総会: 隔年開催 (10月にカナダで開催されたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止等の観点から参加を見送った。)

(2) アジア太平洋富くじ協会 (APLA: The Asia Pacific Lottery Association)

・日宝協: 理事

・理事会: 毎年開催 (新型コロナウイルス感染症拡大防止等の観点から、4月、9月及び12月にウェブ会議として開催した。)

・総会: 毎年開催 (9月にシンガポールで開催されたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止等の観点から参加を見送った。)

令和4年度事業報告 附属明細書

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、これを作成しない。